

2003.2.1

「澤井河川塾」近畿通信 Vol. 28  
(NPO 法人近畿水の塾ホームページ)

////////////////////////////////////  
**NPO 法人近畿水の塾設立記念会は「柳川堀割物語」です!**  
////////////////////////////////////

### 【河川塾NEWS】

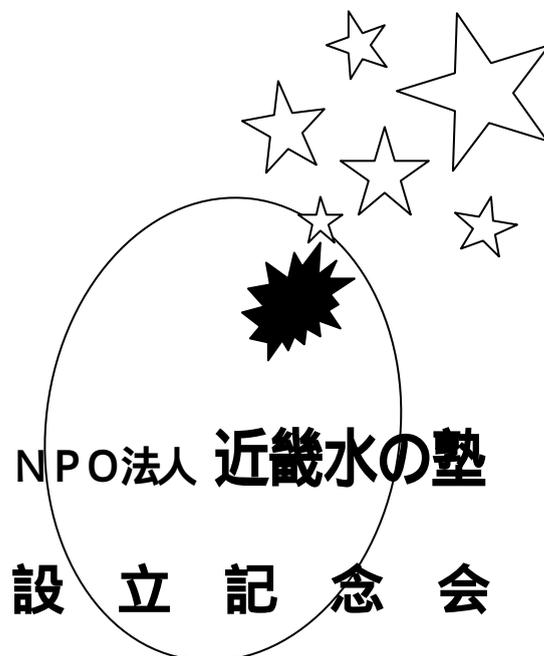
みなさん、お元気ですか？

NPO 法人近畿水の塾は、今年ますます元気です!!

そんな元気な水の塾が「楽しいイベント」第1弾として、下記設立記念会を開催します。

映画「柳川堀割物語」のメッセージとともに、法人の誕生秘話、これからの活動や私たちの思いなど、近畿水の塾のメッセージを皆さまにお届けできれば、と思っております。

会員、非会員を問わず、多数のみなさまのご来場を心からお待ちしております!



---

あなたの足の下は源流であり、最下流。

足の下から身のまわりを、人から流域を、水から環境を考え、行動する。

そんなことを目指して、NPO活動をスタートしました。皆さん、一緒にやりませんか!

2003. **2.11** (祝) 13:00 ~ 17:00

(交流会 18:00 ~)

大阪府青少年会館 第6会議室 (本館 2F)

「柳川堀割物語」と「広松 伝」を語る 【13:00 ~ 13:30】

語り手 山道 省三 (全国水環境交流会事務局長)

映画 「柳川堀割物語」 【13:30 ~ 16:20】

近畿水の塾がめざすもの 【16:30 ~ 17:00】

交流会 【18:00 ~】

NPO法人近畿水の塾は平成14年8月に設立されました。このたびの設立記念会は、近畿水の塾立ち上げを宣言するとともに、趣旨に賛同する方への呼びかけ、会員や近畿で水環境について活動している仲間の交流を目的に開催します。会員だけでなく、入会を希望される方や水環境保全で活動されている方も大歓迎です。

主催 NPO 法人 **近畿水の塾** (<http://www.geocities.jp/mizunojuku/index.html>)

参加費

設立記念会 1,000円 (資料代)

交流会 3,000円

定員 60人 先着申込受付順

締め切り ~~4月30日~~ 2月6日 (金)

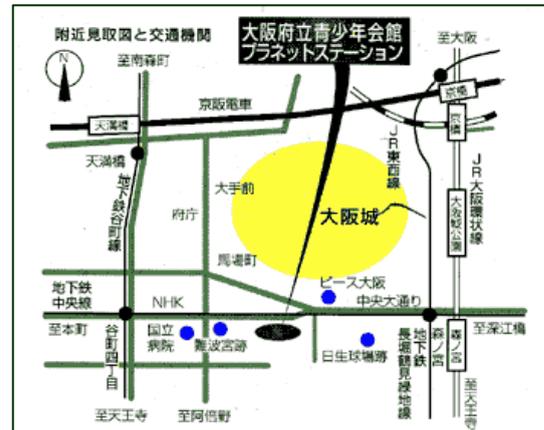
会場案内

大阪府青少年会館第6会議室 (本館 2F)

大阪府中央区森ノ宮中央 2-13-33

TEL : 06-6942-2441

<http://www.yso.or.jp/kaikan/kaikan.html>



JR大阪環状線「森ノ宮駅」から西へ約500mか、  
地下鉄中央線・長堀鶴見緑地線「森ノ宮駅」2番出口

## 映画「柳川堀割物語」とは・・・

福岡県柳川市は、無数の小川を有した都市です。この映画は全国的にも有名な観光名所である柳川が辿ってきた水環境復活の過程を記録しています。柳川が直面した問題は、全国の都市や町村でも遅かれ早かれ直面した問題でした。柳川はどう対応したのか。何を選択したのか。それをこの映画は追っています。

全国的に平野部都市部の小川が死の川と変貌したのは、昭和40年代の公害問題のピーク時と重なります。その対策をほとんどの都市は下水道に求め、それは柳川でも同様でした。しかし、柳川には独自の水の歴史、文化がありました。「もたせ」。「もたせ」とは、雨や上流からの水をできるだけ滞留させて利用しつつ、雨が堀の能力を越えると緩やかに田を浸すしくみをいいます。「もたせ」こそ水利と治水の一体システムでした。「もたせ」の思想をいかに維持するか、環境問題を工学的に解決するか、柳川は選択を迫られました。かつての管理組織が消滅し、清掃されず放置されたも同然の有様で、川は選択を待っていました。「物語」は選択によって生まれました。柳川は「もたせ」の思想を選び、3つの実施計画を決めました。第1、浚渫によって水路を復元し流水を確保する。第2、排水規制を強め浄化施設を増やし汚水の流入を抑える。第3、維持管理体制をつくり市民参加の清掃を復活する。

川とのつきあいはわずらわしかった。だから、一度こわれた川との連帯感を取り戻すのは難しい。それを乗り越え、実施計画を推進した行政の行動は、わが国では希有です。水路だけでなく、市民の潜在的なエネルギーを掘り起こした「物語」です。

「もののけ姫」の宮崎駿（製作）、高畑勲（脚本・監督）コンビの異色のドキュメンタリー。1987年作品。毎日映画コンクール文化記録映画賞受賞。なお、堀割の再生に奔走し、水資源の保全を訴え続けたこの映画の主人公ともいえる元柳川市役所職員で水の会会長だった広松伝（ひろまつ・つたえ）さんは、平成14年5月15日、敗血症のため、久留米市の病院で逝去されました。享年64歳。

広松さんを師匠と仰ぐ山道省三さんが、今回、師匠の仕事を語ってくれます。

## 「柳川堀割物語」上映会（近畿水の塾設立記念会） 参加申込書

NPO法人近畿水の塾 事務局 宛（FAX 0725-53-5325）

申込日 / 平成 年 月 日

（ふりがな） 氏 名	-----		
所属団体			
連絡先	住所：〒 電話： E-mail：	FAX：	
交流会	参加・不参加 どちらかに を。 参加費 3,000円		

FAX，郵送、またはEメールでお申し込み下さい。

お問い合わせ 近畿水の塾事務局 TEL&FAX 0725-53-5325

E-mail:[mizunojuku@yahoo.co.jp](mailto:mizunojuku@yahoo.co.jp)

〒594-1151 大阪府和泉市唐国町 1-19-95-201 佐藤方

## 【前回河川塾の内容】

「第25回澤井河川塾」

日時：1月13日(日) 12:30~

場所：石川…案内役：勝山さん（近鉄「喜志」駅集合～富田林市民会館）

出席：足立、澤井、木村、西河、白木茂、白木江、白樫、塚田、古川、勝山、  
佐藤拓&侑（デスクワークから合流）計12名

内容： シリーズ マイリバー紹介  
「南河内 石川」 - 勝山さん

## 石川 ～フィールドワーク～

石川リバーウォッチング（報告）

平成15年1月13日月曜日、成人の日で祝日。快晴、寒かった正月以来、久々に少し暖かい。今日は、澤井河川塾フィールドの日で、大和川支川の一級河川石川リバーウォッチングだ。前回の河川塾で、石川河川公園自然ゾーンワークショップのメンバーより紹介のあったゾーン中心に、水の塾勝山さんの案内で、川を観察する。

午後12時30分、近鉄長野線「喜志」駅東ロータリーに集まったメンバーは、澤井氏、木村氏、白木茂氏、白木江都子氏、白樫氏、塚田氏、足立氏、勝山氏、古川氏と西河。水の塾事務局の佐藤拓二氏は鏡開きに挺摺って、治療のため佐藤侑美氏と共に途中合流と連絡があった。



興正寺別院門前にて



「長い長い航空写真」

先ず、車2台に10人が分乗し、勝山氏の先導で寺内町に着いた。富田林は何でも石川・寺内町・PLの塔がまちのアイデンティティとのことで、最初にそこに案内された。川がまちの個性であるのは何とも羨ましい。古い寺町独特の、で整備された少々狭い街道を中世の宗教自治都市の中心であった興正寺（こうしょうじ）別院前に駐車して、門前で石川全体の「長い長い航空写真」を広げ眺めていると、我々の跡に狭そうに車を止めて出てきた住職が中に入って下さって結構と。親切心に煽られながらも、次があるので遠慮。

街道を出て、改めて石川金剛大橋を右岸に渡り、西行のうたの道と呼ばれる河川敷ゾーンへ。佐備川が流入する本流では、釣り人が何やら鯉を釣っては放していた。石川は平野を流れる川のせいか南河内平野を囲む二上山・葛城山・金剛山・岩湧山・和泉葛城山の稜線が一望でき、石川への分水界がよくわかる。あの尾根に降った一滴の水がここに辿り着くまでの様子が頭の中に浮かぶ。車1台がやっとの新北橋（横には立派な南河内サイクリングラインのサイクル橋がある。）を再び左岸へ千早集いの広場付近に車を止め、広い高水敷が一面芝生でレクリエーションに人が集まっている中を本流部へ。この辺りは飛鳥プランパンフレット表紙のように玉石が低水護岸に張り詰められ、低水路は全幅河川水が湛水していた。直近下流・上流が堰上げされていたためだ。上流側の堰を見に行った。ファブリ社の風船型ダムでこの季節ではあるが、堰上げ状態であった。魚道は両岸に70cm幅位のものが階段式であったが最上端に堰板が詰められ、河川水は真丸のダムを越流していた。沢登りの足立氏でもこのダムは越えられまい。この流域は川よりの農業用取水が多くあるらしく、細かに風船ダムが出現する。カヌーイストがダムすれすれにターンを繰り返していた。



ファブリ社風船型ダム



石川・梅川合流点よりA地区を望む

河南橋を再々度右岸に渡り、ようやく自然ゾーンのB地区に到着。ここは、現在の流路になる前は一番弱い部分だったそうで、本流を西に相当振った個所だ。元の低水路部分をワンドにしているのだが、本流のフラッシュはあまり無いようで、湧水や伏流水が水量を維持しているようだ。右岸支流の梅川合流点よりA地区を眺めた。草が繁茂しいかにも自然のままに見える。高水敷堤防よりも管理用通路(園路)が見えたのが唯一人工的だった。見てくれでは判らないので、平面図で説明を受けた。梅川の旧流路を復元しているとのこと。休日だけあって石川本流では人の操る小さなヘリコプターが何機も飛び交っていた。



ミニ石川の農業用排水路。春の小川のように



荒れかけた固定堰。風船よりは優しく

午後4時前となり、少しずつ風が冷たく感じてきた。対岸のミニ石川も是非見たかったので、急いで河南橋を左岸に移動、D地区へ。春の小川を思い出させてくれる素掘りのままの農業用排水路に比べ、取水直後の農業用水路部は固かった。残念ながらミゾコウジュの群生地では季節柄、可憐な花を見ることは出来なかった。荒れかけた固定堰が、以外と風船型のそれより優しく見えた。

慌てて、富田林市民会館に石川流域講座の皆さんとの合流のため、1月19日に予定している、「石川流域フォーラム」の打合せと展示物の作成に追われて忙しい中にお邪魔した。数名の方は前回の河川塾で既に交流があり、ここでも広げた「長い長い航空写真」を関心の眼で皆眺めては、思いを語った。

淀川河川公園との対比、都市公園法の網と都市公園の限界、園路と自転車道と河川管理用通路、公園とは・河川とは・自然とは、などなど、閉館までの短い時間ではあったが互いに感想と意見交換を行った。

石川で繰り広げられている、行政と市民の関係は様々な課題を持つようであるが、これからの川のあり方・公園のあり方への参考になりそうだ。皆様お疲れ様でした。

[西河 記]

## 【次回の予告】

次回、「澤井河川塾」のご案内です。

### 第26回「澤井河川塾」

日時：2月16日(日) 10:00~14:20(17:00)  
・・・フィールドワークとLRTの2部制です！！

集合：南海本線「貝塚」駅改札前 10:00(車乗合せて現地に向かいます)

内容：河川塾フィールドワーク  
「大阪府 近木川」-案内役 白木さん

参加申込：近畿水の塾 事務局 (FAX:0725-53-5325

E-mail: [mizunojuku@yahoo.co.jp](mailto:mizunojuku@yahoo.co.jp)) まで 2/14(金)締切

||| 近木川リバーウォッチング&春木川ラブリバーテンダー会議 |||

? スケジュール

(行程)

10:00 南海本線貝塚駅改札前 集合

10:10~ 近木川汽水ワンド現場見学

11:30 近木川中上流部見学(旧26号線 山手側)

12:30 食事・意見交換

14:20 岸和田市立春木市民センター

(岸和田市春木若松町2-1-1 0724-36-4500)の

「春木川・轟川市民の集い LOVE RIVER TENDER 会議」  
に合流・・・流れ解散

以下 LRT 会議次第

14:30 ~ 開会挨拶 主催者挨拶

14:40 ~ 「私たちの水辺活動」発表

近木っ子探検隊

田尻町まちづくり住民会議

阪南町箱作小学校

大阪府立貝塚高校環境科学

15:30 ~ パネルディスカッション

「ふるさとの川をみつめよう！今私たちに何ができるか」

春木川をよくする市民の会

牛滝川を守る包近の会

近木川浄化実行委員会

櫛井川を清流にする会

コーディネーター 白木江都子

17:00 閉会挨拶 岸和田市

(参考)当日は泉州国際マラソンが堺浜寺 11:00 スタートで南下し、りんくうタウン 15:30 頃(最後尾)ゴール予定で旧 26 号線(府道堺阪南線)で行われます。

交通規制：貝塚 11:30 ~ 13:45、岸和田 11:15 ~ 13:30(想定)

(備考)意見交換場所は、当日までに手配予定

車は参加人数にもよりますが、現在 3 台手配可能です。

? 自然遊学館を中心とした地域の小中学校での環境学習指導から汽水ワンドの整備計画提案まで、多彩な活動をされている「貝塚市市民の森に生態園をつくる会(わくわくクラブ)」の皆さんのフィールド「近木川」を『中・下流部』を中心に主要なポイントを廻りながら見学します。

「川の自然とは何か」「川と共生する技術はあるのか」「その中で市民は何ができるのか」など、川をめぐる課題についてざっくばらんに話し合いながら、川沿いを散策してみたいと思いますので、関心のある方はどうぞご参加ください。

H15.2.22(土)、「子どもと海・なぎさ海道フォーラム ~ 21世紀の川と海そして自然との豊かな係わりを求めて in 貝塚(近木川河口フォーラム)~」開催

## 【川の情報ボックス】

イベント情報

子どもと海・なぎさ海道フォーラム in 貝塚  
(近木川河口フォーラム)

テーマ 「21世紀の川と海そして自然との豊かな係わりを求めて」  
次世代を担う子どもの視点から考える

目的 近木川河口の祖全盛体系の復元をめざす取り組みと関係主体の協働の  
場づくりを進める

海辺で子どもや自然観察などをテーマに取り組みを進めている市民団体の  
交流と連携を進める契機とする

内容

10:00～12:00

第1部 自然観察会(近木川河口にて)  
バードウォッチングと打ち上げられた貝がら拾い

12:00～13:30

移動・昼食(各自ご用意ください)

13:30～15:20

第2部 近木川河口の自然再生をめざす地域交流(関空交流館にて)  
「近木っ子探検隊」等活動報告と意見交換

15:20～17:00

第3部 子どもと海の豊かな係わりをめざす広域交流(関空交流館にて)  
「自然と本の会」等活動報告と意見交換

日時：平成15年2月22日(土)10:00～17:00(雨天決行)

場所：近木川河口と関空交流館

交通：南海本線「貝塚」駅よりバス「市民の森」下車 徒歩3分

主催：貝塚市立自然遊学館、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構

後援：国土交通省近畿地方整備局、大阪府

問合せ先：貝塚市立自然遊学館 TEL 0724-31-8457(担当：白木)

E-mail:[shizen@city.kaizuka.osaka.jp](mailto:shizen@city.kaizuka.osaka.jp)

(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構 TEL 06-6441-8200(担当：南)

(株)地域計画建築研究所 TEL 06-6942-5732(担当：杉原)

その他：プログラム終了後懇親会(自由参加、会費制)を予定

(「子どもと海・なぎさ海道フォーラム」ちらしより転載)

<http://www.mydome.or.jp/kaizuka/sizen/sizen.htm>

## イベント報告

### 「石川流域フォーラム」

#### 参加報告

「近畿水の塾」も「後援」を行った「石川流域フォーラム」報告です。

主旨 平成11年度から開催している市民と行政の協働による「ワークショップ」の成果発表や、石川をテーマに総合学習を展開している学校の情報交換、今後取り組むべき方向を示した「市民・行政の共同アピール」を行い、石川流域の人・自然・暮らしのネットワークづくりを進める。

日時 平成15年1月19日(日) 10時～17時

場所 富田林市民会館 中ホール

参加 小学校4校 中学校2校 高等学校1校 15名  
一般参加者 36名  
実行委員会及び石川流域講座生 21名 合計72名

(うち水の塾、白木、白木(江)佐藤、佐藤(ゆ)、西河、寺川、勝山)

主催 石川流域フォーラム実行委員会

後援 大阪府、富田林市、NPO法人近畿水の塾

内容 以下、感想含

開会

当日は、朝から雨。・・にも関わらず、順調な人の入り。玄関受付では、「水の塾」事務局佐藤(ゆ)さんが流域マップを仕切る。(大阪府下の地形図に参加者の名前を貼り付けていきました。)ただ、横の大ホールでの「大カラオケ大会」がいろいろな意味で気になるところ・・。

パネル展示

会場の周囲に、数十枚のパネルが並び、見ごたえ十分。総合学習のパネルに負けじと、力作が揃いました。大阪芸術大学学生による「自然ゾーン」立体模型、流域で発掘したという石器時代の矢尻?(私物にしてよいのか?)、河川工事着工前日に、「この景色を記録に残したい。」一心で、風邪をおして撮影したという、思い入れたっぷりの写真展など、おそらく地元の人間にしか理解出来ないであろう?展示物も多く、個人的にはおおいに楽しめました。(私も地元です)もちろん、水の塾からは、近畿での活動マップ(大阪府私の水辺大発表会・使用品)ほかを出展、PRに努めました。(パンフだけは?結構さばけてました。)



現在「かわガキ」君（富田林市在住）の作品



石川での「総合学習」成果の発表

### 総合的な学習情報交換会

会場の中心を向き合うかたちで、小～高校までの先生方による情報交換会を実施。進行は、石川ワークショップの中心メンバー笠原氏。（小学校の先生です。）いわゆる役所でありながら、まったくトップダウンが機能しない、教育現場での情報不足の現実についての報告が印象的でした。今回の顔合わせは、市域を超えての交流及び情報のストックに向けての活動につながるのではないのでしょうか。

### 活動発表 1 市民の取り組み

まず、「石川あすかプラン（S60に、大阪府土木部が作成した河川整備計画）を考える市民連絡会」代表で、石川ワークショップの中心メンバーでもある田淵氏より、当会立ち上げの経緯、成果の発表。行政サイドからの協働、協働のアプローチが続く昨今において、石川の市民活動の歴史（長さではなく深さ）を改めて実感しました。特に、「石川河川公園」に代表される、「河川」と「公園」という「縦割り行政の弊害」について、当時から指摘し続けておられたことに改めて感心するとともに、まだまだ改善の余地が蓄積する行政の体制が浮き彫りになりました。

次に、石川ワークショップに学識者として参加されている大阪芸術大学の篠沢先生より、主に「自然ゾーンA地区」の協働成果について発表。「川に川をつくらせる」というコンセプトのもと、「市民側からの発案による、伏流水を使った旧河道の復元」という工事を3年がかりで、かたちにしたことをまず協働の成果として認識し、自然の復元状況を継続して見守り、観察することの重要性について説明がありました。

いつもの河川塾における、澤井先生のコメントと同じで、協働作業における学識者による客観的・学術的評価の重要性を再認識しました。



石川ワークショップ田淵氏が語る「石川の姿」の変遷 「石川流域講座生」の成果発表

### 活動発表 2 行政の取り組み

石川の河川管理者である大阪府富田林土木事務所より、河川改修の経過等についての報告。

大阪府が進める「河川の養子縁組制度・アドプトリバー」について、その立場上、淡々と説明する担当者に対し、白木（江）さんより一言。「顔と顔をあわせてするのが対話の原則。今日ぐらい本音でいきましょう！（違ってたらすいません。）」

パネルトーク「市民と行政の協働とは」

我が水の塾ご意見番、石川にもかかわってられる白木（茂）さんより「共生型技術」についての提案。「自然を相手にする（つくっていく）」ということは、100年ぐらいの時間、気構えが必要。現在の計画 施工 竣工という完結型ではない、キレメのないローリングシステムによる土木技術手法の理解・意識共有が必要。」

自然復元が進む、「自然ゾーンA地区」でも、「維持管理手法について早急にまとめる必要あり。」「管理者責任」「自己責任」「自然として放置する勇気も必要。」などの意見が交錯。管理者としての行政、大半が他人まかせの市民、という現実。



会場は熱気ムンムン



会場とパネラーのやりとり

## 石川アピール

フォーラム実行委員（市民・行政・学識者さまざま）が秋頃より、出張ヒアリング・ワークショップにて積み重ねてきた「思い」を、市民・行政の共同宣言「石川アピール」として読み上げ。「石川の将来ビジョンの共有」「自然と共生する技術の確立」「協働についての意識改革」「協働のための環境づくり」など、このメンバーならではの内容。個人的には、「市民は・・・市民同士のコンセンサスを！・・・意見が異なることを恐れずに話し合い、石川についての理解と取り組みの場を広げます。」のフレーズが一番印象的でした。さらに、「水の塾」佐藤（拓）氏のアドリブ？で行政に関する部分を市民が、市民に関する部分を行政の人間が読み上げるという演出。市民サイドからの発案による「アピール」という行動に、自分自身も含めた石川市民の底力を感じました。肝心なのはこれからです。



石川アピールを宣言！



人間流域図で参加者全員が手をつなぎました

## 人間流域図

フォーラムの締めくくりです。参加者全員が、自分の住む流域ごとに分かれ、手をつなぎあい、人間マップをつくりあげました。マップは、北は淀川から南の近木川まで全てが大阪湾につながる巨大なものとなり、改めて人々のつながりの大切さを実感しました。最後に

水の塾は、今回のフォーラムに、「石川アピール」作成のためのミニワークショップの開催、石川流域講座への講師派遣（川上さんの名張川）などで参加してきました。確実にいえるのは、その情報、経験が石川のメンバーが自分たちの足元を見つめなおすよい機会になったということ。他流域の活動に励まされたり、「自分たちも捨てたもんじゃない」という自身をもったり。水の塾の「流域間交流」という一つの設立趣旨を改めて痛感したイベントとなりました。

〔以上 かつやま〕

## 【事務局より】

河川塾世話人紹介の第3回です。  
水の塾若手ホープの登場です！！

大阪府に勤務しております勝山（かつやま）と申します。

現在は、堺市にある大泉緑地にて、みどりに関する仕事をやってます。

「水の塾」への参加は、2000年の「川に学ぶシンポジウム in 近畿」実行委員からとなります。当時は、府営石川河川公園に勤務していて、行政と地域のメンバーからなる「ワークショップ」活動が軌道に乗り出した頃でした。仕事で面識のあった白木さんより、「シンポに向けて、色んなメンバーが集まり動き出している。今度、勉強会を開催するので来てみない？」とのお誘い。今思えば、仕事上での色々な協働作業の中で、地域のパワーというものを実感して、「行政マンである前に、自分も、石川で遊ばせてもらった、いち市民なんや・・・。」と気づき始めたちょうどその頃だったように思います。それ以降、仕事を通り越して川にどっぷりつき、現在に至っています。

「水の塾」では、この多彩なメンバーでこそその活動を、マイペースで、やるからには楽しくやっていきたいです。また、その刺激で、「ガキの頃お世話になった石川へも、何か、お返し（おおげさ）が出来ればな・・・。」と考えています。

P.S. カヌーもかじってます。どなたかご一緒しませんか？

勝山さんには河川塾の企画運営及び広報担当をお願いしています。

河川塾開講当初からの世話人である勝山さんは、「石川で産湯をつかい、石川で育った根っからの石川っ子」(本人談)らしいです。

そんな元『かわガキ』(?)の勝山さんも、もうすぐ3児の父・・・

次代の『かわガキ』候補のお子さん達と、石川で遊びまわる姿が目に見えます。

勝山さんの学生時代の経験を生かして、いつか『かわガキ』の映画を作れたらいいですね。

お詫びと訂正

前号河川塾通信 Vol.27 の日付が間違っておりました。

正しくは2003.1.1です。お詫びして訂正させていただきます。